

第13回石西礁湖自然再生協議会

普及啓発グループからの報告・提案

平成22年7月30日
於沖縄県八重山事務所

普及啓発グループでは、
「石西礁湖自然再生の取り組みにつ
いて、広く理解を求め、活動に協力
してもらい、更には活動主体となっ
てもらう（全体構想p54抜粋）」た
め、「広報啓発」を推進し自然再生
活動への参加のキッカケづくりとな
るような「**普及啓発プロジェクト**」
の実施について検討してきました。

昨年度提案した普及啓発プロジェクト

No	名 称	概 要
1	地魚を食べるプロジェクト-地産地消の推進-	さしみ屋での海産物購買を図り、海面利用者のサンゴ再生活動の参加を促す。
2	うなじゅらプロジェクト-海域への理解-	伝統文化等を通じ、サンゴ礁と人の関わり合いについて理解を深めてもらう。
3	サンゴを見たことない子どもゼロ作戦	小学生を主な対象として、八重山の島外へ出る前の子ども達に、一度はサンゴを見る体験をさせ、サンゴ礁保全の理解を深めてもらう。
4	ゲットウを植えてサンゴを救おう	八重山へのパッケージ観光にゲットウの記念植樹を加えてもらう。観光客には記念品を贈呈する。
5	アラジンを増やそうプロジェクト-放流事業-	生態的にサンゴ礁に深い関わりがあるアカジンの放流体験を小学生に実施させ、漁業への関心、サンゴ礁の現状について理解を深めさせる。
6	海のエコマーク(ロゴマーク)認証プロジェクト	石西礁湖自然再生のオリジナルマークを作成し、自然再生活動を行うことにインセンティブや、更なる広報効果をもたせる。
7	ダイバーがひっぱる保全活動プロジェクト	ダイバーが既に自主的に取り組んでいるサンゴ保全活動(オニヒトデ駆除、サンゴ増殖活動等)を支援する。
8	島まるごと一斉調査 -海につながる河川の健康度-	海につながる河川の水質(赤土・栄養塩等)について地元住民参加型調査を一斉実施し、攪乱要因の一つの現状を理解してもらう。
9	島まるごと一斉調査 -サンゴのイキイキ度-	地元住民参加型でサンゴ礁の状態(SPSS、コーラルウォッチ、サンゴ被度等)を調査し、本来のサンゴ礁劣化状況を理解してもらう。
10	島まるごと一斉調査 -浜辺の落とし物探し-	地元住民参加型の海岸漂着ゴミ清掃を一斉に行い、ゴミの漂着状況を実感してもらい、清掃活動継続の理解を深めてもらう。

普及啓発プロジェクトの実施状況

No	名 称	実施状況等(協議会内外の取組み)
1	地魚を食べるプロジェクト-地産地消の推進-	
2	うなじゅらプロジェクト-海域への理解-	
3	サンゴを見たことない子どもゼロ作戦	子ども達への普及啓発活動。協議会の委員により海の観察会等を実施している。ただしまだゼロにはならないのでより大きな行動が必要。
4	ゲットウを植えてサンゴを救おう	カーボンオフセット観光は商工会で実施されている。グリーンベルト等は協議会委員の農政サイドを中心に進められている。
5	アラジンを増やそうプロジェクト-放流事業-	協議会委員の西海区水産研究所が放流事業を実施。
6	海のエコマーク(ロゴマーク)認証プロジェクト	阿蘇草原再生協議会の事例を参考に、普及啓発グループで検討を始めたところ。
7	ダイバーがひっぱる保全活動プロジェクト	オニヒトデ駆除活動は竹富町ダイビング組合・八重山ダイビング協会が基金を用いて実施。
8	島まるごと一斉調査 -海につながる河川の健康度-	千川、東工大・瀬岡研メンバー等その他協議会委員有志が参加し、全国水辺の一斉調査に参加。石垣島で水質調査。
9	島まるごと一斉調査 -サンゴのイキイキ度-	富野小のコーラルウォッチ等は実施。今年度は白化の恐れがあることから協議会でも実施したい
10	島まるごと一斉調査 -浜辺の落とし物探し-	環境省主催の清掃活動や石垣島ビーチクリーンクラブ等、実施している団体が多数あり、連携の強化を図る必要あり。

石西礁湖自然再生協議会として「コーラルウォッチプロジェクト」実施の提案

■目的

八重山在住者を募って、周辺海域のサンゴの生息状況を観察するコーラルウォッチを実施し、石西礁湖自然再生活動について関心を高めてもらう。



■実施内容

石西礁湖自然再生協議会メンバーから15名程度からなるコーラルウォッチ実行委員会を設置し、サンゴ礁基金を活用して実施

各実行委員を中心とした一般参加のコーラルウォッチチームを編成し、8月・10月にチーム毎に実施する。

*コーラルウォッチとは、カラーチャートによりサンゴの生息状況を知る簡易的手法

石西礁湖自然再生協議会の活動としての承認・ご参加をお願いいたします。

石西礁湖自然再生ロゴマーク作成の提案

■目的

石西礁湖自然再生のオリジナルロゴマークを作成し、自然再生活動を行うことのインセンティブや、さらなる広報効果をねらう。

■今後の展開

ロゴマークの公募、運用方法、使用規定を検討する。

(参考事例)



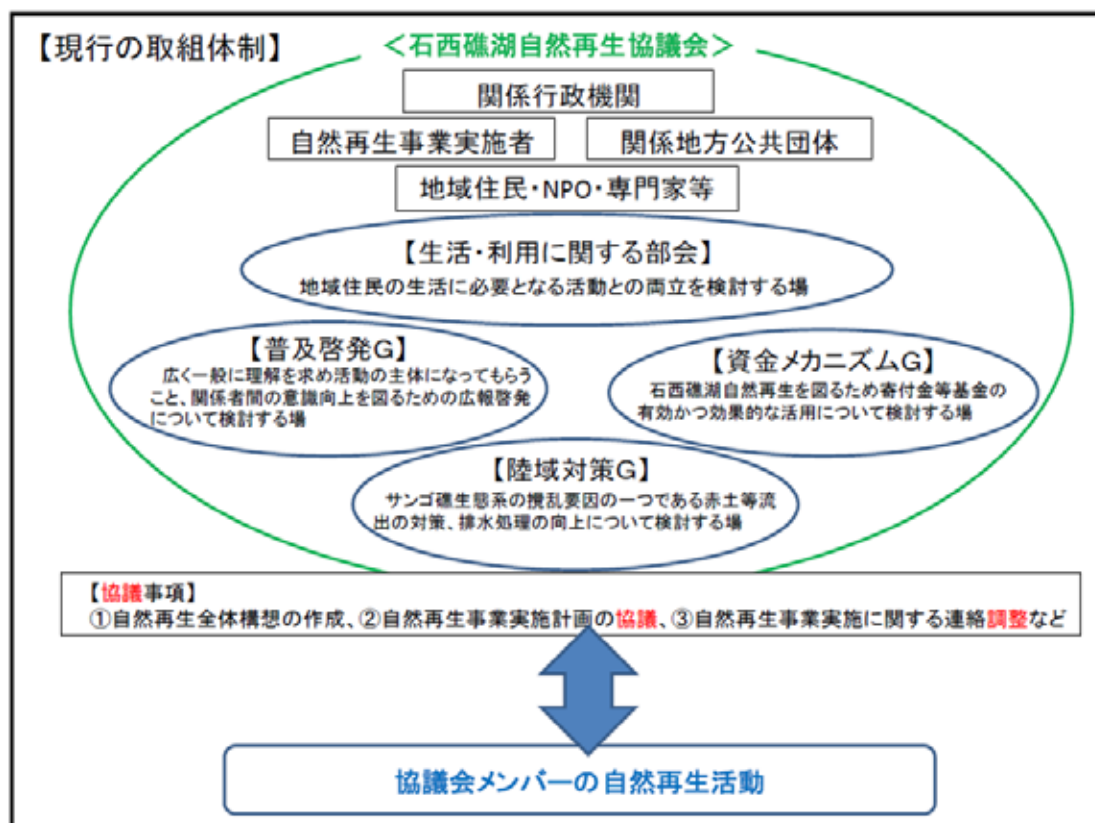
阿蘇草原再生
【阿蘇再生のロゴ】



【環境省デザインマーク】

石西礁湖自然再生協議会の活動として承認をお願いいたします。

普及啓発グループでは、
「石西礁湖自然再生の取り組みについて、広く理解を求め、活動に協力してもらい、更には活動主体となってもらおう（全体構想p54抜粋）」ため、「関係者の意識の向上」を推進し自然再生がより実効性をともなうような**「実働性のある取組体制」**について検討してきました。



普及啓発グループから体制変更の提案

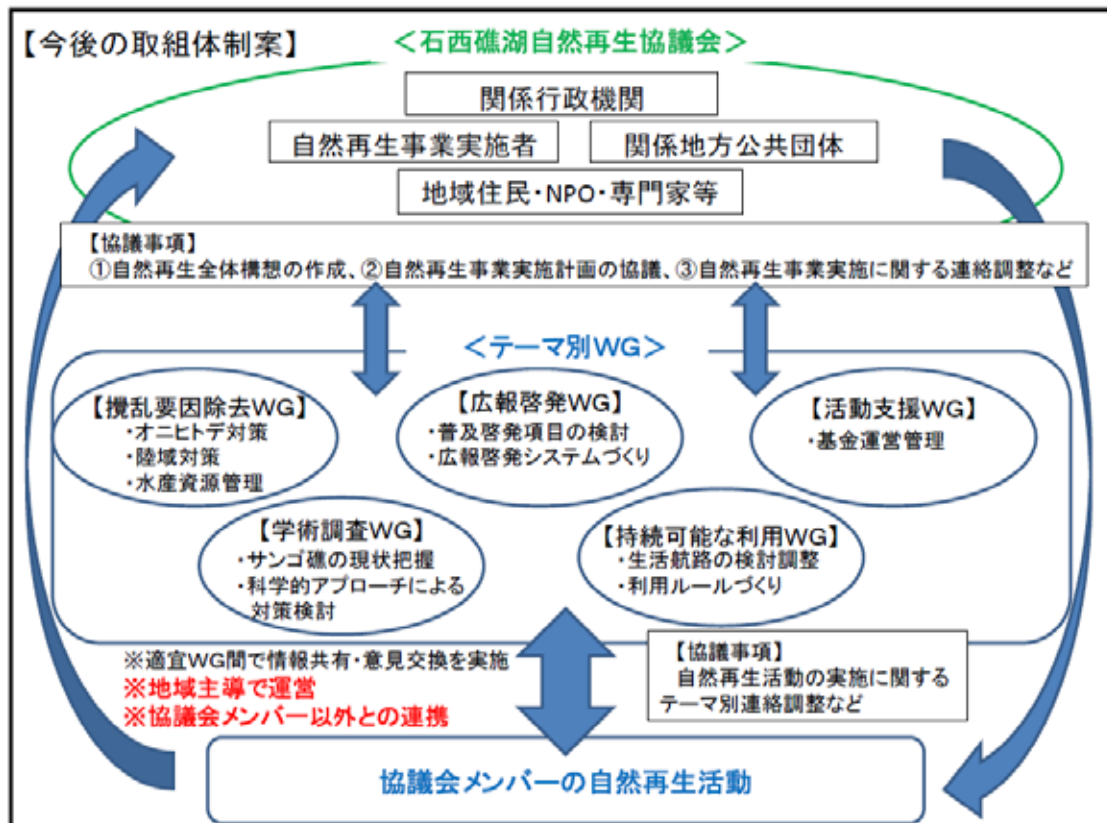
「石西礁湖自然再生を实践する各WG」の設立

■これまでの体制と異なる点

- ・自然再生のより細かいテーマについて効率的な検討の場
- ・自然再生活動を実働していく組織
- ・地域主導で、すみやかな運営体制
- ・協議会メンバー以外の参加が容易

■課題

- ・WG運営事務局が複数となる
- ・協議会規約、運営細則上の部会体制を整理する必要がある



今回の協議会で承認を頂きたいこと：

1. より強力な実施推進体制づくりを意図した協議会体制変更の基本的考え方の承認
2. 新体制のもとでなるべく早く活動を開始するための各WG体制の具体化手続き（下記）の承認

<具体化手続き>

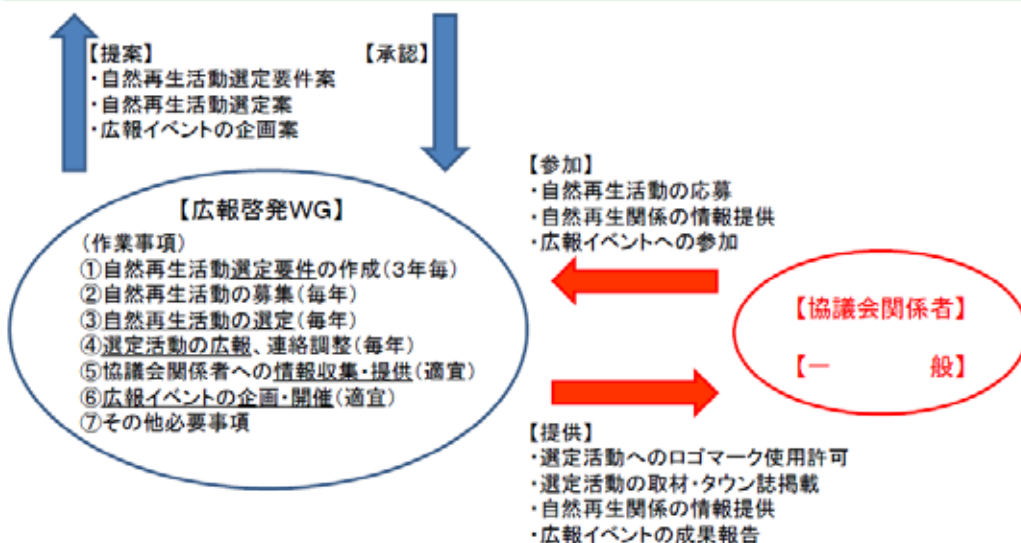
- 1) 各WGの名称や主要活動項目について、事務局（環境省・沖縄局）が中心となって協議会メンバーリスト等でより具体的なたたき台案を配信し、協議会メンバーの意見集約を図る
- 2) 得られた意見を反映した修正案を事務局がとりまとめ協議会メンバーリスト等に配信し了承を得る
- 3) 了承された各WGに関して協議会メンバー全員に所属希望WGのアンケートをとる（複数WGへの所属可とする）
- 4) その後直ちに各WGのリーダーとサブリーダー（基本的に地元の方中心）を選出する
- 5) 各WGの活動支援のための事務局機能などを必要に応じて整備
- 6) 各WGの体制が固まり次第、活動開始

例：広報啓発WGの役割と位置付け

<石西礁湖自然再生協議会>

【協議事項（規約第4条関係）】

①自然再生全体構想の作成、②自然再生事業実施計画書の協議、③自然再生事業実施に関する連絡調整など



①自然再生活動の選定と広報

- 協議会がバックアップし、広報していく自然再生活動を公募
- 公募から、選定要件に準じて、広報していく活動を選定
- 協議会で審議、認定
- 認定された活動については、その年度重点的に広報する
- 認定された活動に対して、**ロゴマーク***使用を許可
- タウン誌(月刊やいま(南山舎)調整中)取材・掲載、HP掲示などで、広報
- 発表会や表彰の実施等
- 情報共有・発信の利活用
石西礁湖ポータルウェブサイト、ニュースレター(年2回)、
メーリングリスト(協議会全体、普及啓発、資金)をより活用
できるよう検討

②自然再生活動とはどのような活動か選定する要件案の作成

- 以下要件に該当する自然再生活動とするものが、広報対象とする。
【選定要件案】
 - i)サンゴ礁への関心を高める
 - ii)海と人間の生活の関係を改善する
 - iii)サンゴや海の状況を調べる
 - iv)自然再生活動への参加を一般に促す
 - v)サンゴ礁と関われる学びの機会を作る 等
- 選定要件は、3年程度で更新